地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業

令和8年度予算額　212百万円
（前年度予算額　240百万円）

文部科学省

【 補助事業（補助率：国庫補助率1/3、都道府県・市町村各1/3 ※市町村直接実施の場合2/3負担）、実施主体：都道府県及び市町村、平成17年度事業開始 】

背景・課題

市町村が国へ直接申請することも可能

昨今、児童生徒の尊い命を奪う事件・事故が後を絶たないことから、学校内外や通学路における子供の安全確保を図るため、**スクールガード・リーダー等の増員による見守り活動の拡充、スクールガード等のボランティアの養成・資質向上の促進、警察や保護者、PTA等との連携の下で見守り体制の一層の強化などの体制整備**が必要とされている。

事業内容

スクールガード・リーダーの育成支援

○スクールガード・リーダーの資質を備えた人材（警察官OB・OGや教職員OB・OG、防犯の知識を有する者等）を継続的に確保するための育成講習会の実施を支援

○各種講習会等への参加支援（他の自治体で開催する育成講習会への参加支援も含む）

スクールガード・リーダーによる学校内外や通学路の巡回指導等の実施に対する活動支援の拡充

○スクールガード・リーダーの活動支援の拡充のための、スクールガード・リーダーによる指導助言や、各学校を定期的に巡回するために必要な謝金、旅費等の補助

○学校等の巡回活動等を円滑にするためにスクールガード・リーダーの連絡協議会等の開催を支援

スクールガード（ボランティア）の養成・資質向上

○通学路の見守りを担うスクールガードや、学校の安全点検等に参画するボランティアが必要な知識等を身に付けるための養成講習会の実施

○活動の参考となる資料の作成や配布することによる見守りの質の向上

スクールガード増員による見守りの強化及び活動に対する支援

○スクールガード等を募集するための広報紙やポスター、看板等の作成費用の補助

○「登下校防犯プラン」等に基づく、登下校時のパトロールや地域の連携の場構築など防犯活動への支援

○子供の見守り活動に係る帽子や腕章などの消耗品費、ボランティア保険料の補助

スクールガード・リーダー育成講習会やスクールガード養成講習会の開催に係る経費を補助し、見守りの人材確保と質の向上

スクールガード・リーダーがスクールガードに対して、見守り活動・警備上のポイントや不審者対応等について指導・助言

地域ぐるみで子供の安全を守る体制構築

担当：総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課

スクールガード・リーダー （地域学校安全指導員）	スクールガード等 （学校安全ボランティア）
警察官OB・OG、教職員OB・OG、防犯の知識を有する者、見守りボランティアであり長年の経験や講習会の受講等を通じて専門性を有する者など	保護者、PTA会員、自治会員、敬老会員など
活動内容	
適宜、スクールガード等の活動に同行し、具体的な場面に応じて指導助言をしながら、各学校を定期的に巡回する。 ・学校や通学路の巡回指導 ・地域の危険箇所に対する巡回 ・関係機関と連携した通学路の合同点検への参画 ・通学路の見守り活動を行うスクールガード対する指導助言 ・警備のポイントや改善すべき点等の指導 ・通学安全マップの作成指導 ・スクールガード等の養成講習会における指導助言 ・学校安全推進委員会等への参画 ・学校安全体制等の安全点検の指導と評価 ・教職員に向けた防犯対策の訓練、指導	**スクールガード・リーダーや専門家等の指導助言を受けながら、日常的に、通学路の見守り活動や学校の安全点検等に参画する等の具体的な取組を実施する。** ・児童等の登下校時の見守り活動 ・学校内外の施設や設備等の見回り ・通学安全マップの作成協力 ・スクールガード養成講習会への参加 ・学校の施設・設備等の安全点検 ・学校の施設・設備等の安全点検に関する講習会への参加
有	無

謝金、旅費の有無

補助対象

①スクールガード・リーダーによる学校や通学路の巡回指導等の実施に対する活動支援

・スクールガード・リーダーによる指導助言や、各学校を定期的に巡回するために必要な経費
・学校等の巡回活動を円滑にするための連絡協議会等の開催に係る経費

（例） 諸謝金、旅費、消耗品費、印刷製本費、通信運搬費、借料及び損料、会議費、保険料　等

②スクールガード・リーダーの育成、スクールガード等学校ボランティア活動実施に対する活動支援

・スクールガード・リーダーの資質を備えた人材を継続的に確保するための育成講習会の開催に係る経費
・通学路の見守りを行うスクールガードや、学校の安全点検等に参画するボランティアの養成講習会の開催に係る経費
※他の自治体で開催する講習会への参加支援も含む

（例） 諸謝金、旅費、消耗品費、印刷製本費、通信運搬費、借料及び損料、会議費　等

③スクールガード等の増員による見守りの強化及び活動に対する支援

・スクールガード等を募集するための広報誌やポスター、看板等の作成に係る経費
・「登下校防犯プラン」に基づく登下校時のパトロールや、地域の連携の場構築など防犯活動に係る経費
・帽子や腕章等の消耗品費、ボランティア保険料など子供の見守り活動に係る経費

（例） 消耗品費、印刷製本費、通信運搬費、借料及び損料、会議費、保険料　等

SGL SGの活動	行政との連携	住民同士の連携
見守りノウハウ	活動の活性化	若者の参画

千葉県千葉市
「スクールガード・アドバイザーと学校セーフティウォッチャーの活動」

行政区分	人口	面積	人口密度	市立小学校数
政令市	982,429人	271.8㎢	3,615人／㎢	113校

令和３年３月時点

活動の概要

- 「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」として委嘱事業であった平成14年度～補助事業に変わった現在に至るまで長期間事業を継続している。
- 登下校の見守り活動を実施する「学校セーフティウォッチャー」と、学校への巡回・評価、学校セーフティウォッチャーに対する指導・助言を行う「スクールガード・アドバイザー」が活動している。
- 活動者、市、学校、学校支援地域本部（地域学校協働本部）等が積極的に連携を取りながら取組を進めている。

基本情報

事業開始時期	平成14年度 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業を開始
事業内容	「学校セーフティウォッチャー」の養成・研修、「スクールガードアドバイザー」による学校への巡回・評価・学校セーフティウォッチャーへの指導・助言
活動者数と主な経歴	スクールガード・アドバイザー：13名 （元警察官1名、元校長12名） 学校セーフティウォッチャー ：25,149名 （保護者、PTA、地域住民、学校支援地域本部等）
活動学校	市内全小学校・中学校・特別支援学校・市立高校
行政からの支援	スクールガード・アドバイザー：帽子、腕章、ネームタグ 学校セーフティウォッチャー ：腕章 ※横断旗、ビブス等の装備品は各学校から提 供

活動の内容

- 「青少年育成委員会」が設定されている中学校区を1つの区域とし、登下校の見守り及びスクールガード・アドバイザーによる巡回を実施している。
- 見守りの対象は主に小学生だが、中学校区をカバーすることで小学校の通学路もカバーしている。特別支援学校、市立高校も巡回の対象としている。
- 学校セーフィウオッチャーは主に活動する小中学校へ登録し活動する。スクールガード・アドバイザーは各育成委員会4から6区域を担当する。
- 「スクールガード・アドバイザー連絡協議会」を年1回開催し、情報交換及び学校セーフティーウォッチャー活動の充実を目指し、講師の指導を受ける。
- 青少年育成委員会や学校支援地域本部との連携、情報共有を密に実施している。学校セーフティウォッチャーの登録者は、学校支援地域本部における見守り活動実施者と重なる部分が大きい。

活動の工夫

◎　学校セーフティウォッチャーへの「感謝」が活動の継続性に繋がる

- 学校セーフティウォッチャーが“いて当たり前”の空気が課題の一つである。
- そのため、教員への意識啓発とともに、学校セーフティウォッチャーを学校に招待して児童の発表会を見学したり、セーフティウォッチャーにお礼の手紙を読む会、給食を一緒に食べる会など、各学校が独自に取り組んでいる。
- 日頃からの学校との関係づくりだけでなく、学校セーフティウォッチャーのモチベーションアップ、活動の継続にも繋がっている。

◎　様々な主体とのコミュニケーションにより、地域全体での見守りを実現

- 巡回時には、学校教員とのコミュニケーションを積極的に実施するなど、市・地域学校協働本部等とのコミュニケーションを重視、スクールガード・アドバイザー、学校セーフティウォッチャーだけで見守るのではなく、地域全体で子供たちの安全を見守る体制を構築している。

気持ちよく見守り活動ができるような環境づくりが大切

スクールガード・アドバイザー 花沢俊一さん

セーフティウォッチャーが活動中様々な人と挨拶を交わすことは、子供たちの見守りだけでなく、良好な地域づくりに寄与していると考えています。学校セーフティウォッチャーが気持ちよく活動できる環境づくりのため、巡回時のコミュニケーションを大切にし、市や学校とのよき仲介役となるよう努めています。セーフティウォッチャーからの「ありがとう」の言葉はとても嬉しいですね。

いつの日か今の子供たちがセーフティウォッチャーやスクールガード・アドバイザーとして活躍してくれる日が来るといいな、と夢膨らませながら活動しています。

～プロフィール～

- 中学理科教員、千葉市補導センター、小学校校長を歴任。
- 退職後、現役時代にお世話になった地元への恩返しがしたいと、平成29年度から活動開始
- 市内5つの中学校区、8つの小学校を担当。担当区が広いため、独自にグループをつくり、日替わりで巡回している。本人曰く「活動は健康の為でもある」とのこと。

SGL SGの活動	行政との連携	住民同士の連携
見守りノウハウ	活動の活性化	若者の参画

福岡県福岡市

「マンパワーとIoTを組み合わせ、新しい見守り活動へチャレンジ」

行政区分	人口	面積	人口密度	市立小学校数
政令市	153.9万人	343.4㎢	4,482人／㎢	144校

令和３年３月時点

活動の概要

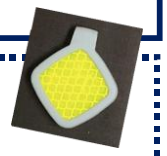
- 教育委員会指導部生徒指導課が所管課として、「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」での各校巡回、NPO法人による防犯教室などを推進しているほか、市民局の生活安全部では「IoTを活用した子ども見守り事業」を実施するなど、教育委員会と首長部局とが連携して通学路の安全確保に取り組んでいる。
- 精力的なスクールガード・リーダーと大勢のスクールガードによって、市内公立学校全校（小・中学校、特別支援学校）を対象に地域ぐるみ事業の活動を行っている。
- スクールガード・リーダー、スクールガードの高齢化・担い手不足や、マンパワーで対応できることの限界を、IoT等の技術でカバーしようという理念を持っている。

基本情報

開始の経緯	市内外での交通事故・事件の発生や文部科学省からの要請等もあり、2007年度より開始
取組内容	スクールガード・リーダー：学校内外の危険個所の確認・集約、子供が楽しく学べる防犯教室の開催 スクールガード：通学路の見守り活動をはじめ、学校の状況に応じ様々に活動
活動者数と主な経歴	スクールガード・リーダー：警察官OB（2名）、警備会社関係者（1名）、防犯関連NPO法人関係者（1名） スクールガード：地域住民や保護者など29,200名（※R1実績）
活動学校	市内公立学校全校（小学校144、中学校69、特別支援学校8）
行政からの支援	スクールガード・リーダーには、謝金、保険加入等の支援

活動の内容

- スクールガード・リーダーは各学校を年間1回訪問し、学校の内外を観察し、防犯の専門的な見地から指導・助言を行っている。各校についてチェックシートを作成し、校長の所見を書き加えたうえで教育委員会に提出している。
- スクールガード・リーダーは、スクールガードに対して行う養成講習会において、子供たちの防犯についての講師をしている。
- 年間3回の「スクールガードリーダー連絡会」を開催しており、スクールガード・リーダーが各学校を巡回する中で得た情報や意見を集約・共有している。
- スクールガード・リーダーには、防犯のNPO法人関係者もおり、年間数校で防犯教室の講師をしている。子供たちが体を動かしながら、楽しく学ぶことのできる教室を提供している。
- スクールガードは、通学路の見守り活動を中心に、各学校の特性に合わせて様々に活動している。無償のボランティアであるため、過負担にならない範囲での活動を行う。



活動の工夫

◎　市民局の「IoTを活用した子ども見守り事業」とも連携

- 市民局の防犯・交通安全課では協働実施事業者である九州電力送配電株式会社と協力し、2019年より、小学生に見守り端末を配布して位置情報を記録し、登下校等の安全確保に役立てるサービスを開始している。
- 教育委員会も連携して事業推進し、既に市内全域でサービスを開始している。
- 見守り活動員の高齢化、人材不足、時間的な制約といった課題を、IoTを活用することで補完していこうという目的がある。

◎　スクールガードの心理的なハードルを下げる

- スクールガードを大げさに考えず、日々の生活の中で自ずと犯罪抑止につながるような小さな積み重ねを行ってもらうことを重視している。
- 「地域住民や保護者等、子どもたちの安全に関わっている全ての方々がスクールガードである」との認識を多くの人にもっていただくことができるよう、各学校を通じて、保護者や地域の方々に啓発している。

「スクールガード」のハードルをもっと低く

福岡市教育委員会 指導部 生徒指導課 主査

スクールガードへのハードルが、もっと下がるとよいなと感じています。保護者や地域の方々が、生活の中で少しだけ防犯や交通安全を意識するだけでも、地域の抑止力は高まります。スクールガードを特定の人が担う役職だと認識するのではなく、「子どもたちの安全に関わっていただいている全ての方々がスクールガードである」という認識が少しでも広がっていくとよいですね。

福岡市市民局 生活安全部 防犯・交通安全課 企画調整係長

現在、非常に協力的な活動者の皆様のおかげで、子供の安全が確保されています。ただ、今後はマンパワーに頼り切るのではなく、IoT等の技術を活用するなど、複数の手段を組み合わせた、効率的な見守り活動の姿を模索していきたいと考えています。

SGL SGの活動	行政との連携	住民同士の連携
見守りノウハウ	活動の活性化	若者の参画

埼玉県嵐山町

行政区分	人口	面積	人口密度	町立小学校数
町	17,747人	29.9㎢	594人／㎢	3校

令和３年３月時点

「住民主体による、地域一体での見守り活動」

活動の概要

- スクールガード・リーダーだけでなく、町内行政区（町内会）、ＰＴＡ、ボランティア団体、交通指導員、行政職員等による見守り活動が行われている。
- 日ごろからのコミュニケーションにより見守り活動者同士の横の連携も自然と構築された。
- 登校時は児童への付き添いを実施しているが、行政区をまたぐ際に、次の行政区の見守り活動者へバトンタッチするなど、役割分担を明確にし、登下校時の空白地帯の減少や、活動負担の軽減を実現している。

基本情報

開始の経緯	地域ぐるみ事業を平成24年度から開始
取組内容	各区の取組は区ごとに様々であり、通学路の安全点検、見守り活動、登校時の付き添い、立哨指導、見守り講習会の開催等を実施
活動者数と主な経歴	スクールガード・リーダー：3名（うち、元警察官１名）
活動学校	町内全小学校（3校）
行政からの支援	スクールガード・リーダー：県からビブスを提供 地域ボランティア団体　：帽子、ベスト等を提供（地域ぐるみ事業外で支援）

活動の内容

- 活動内容は各区、各活動によって様々であるが、主な活動は、登校時の児童付き添い、下校時の見守り活動、交差点等での立哨指導である。
- 登校時の児童の付き添いにあたって、通学路が複数区をまたぐ場合には、付き添いの引継ぎをしている。
- 見守り講習会には、各区住民やPTA、教職員等が参加し、スクールガード・リーダーが講習会の企画及び講師を担っている。
- 各区では、月１回（概ね17時から19時頃に）ナイトパトロールを実施しており、毎回ほぼ全員が参加する区もあるなど、防犯だけでなく、区内住民のコミュニケーション手段としても効果的である。
- 見守り活動の役割分担や方法など、町として指導・提案等は特段実施しておらず、見守り活動者の横のつながりによって、地域ぐるみの見守り活動が実施されている。
- 町では、町役場職員による青色防犯パトロール車での巡回や、交通指導員の確保、パトロールセンターを中心とした防犯活動を実施している。

活動の工夫

◎　広域な通学路は見守りの引継ぎによって安全を確保する

- 通学路が広域であるため、付き添い登校や見守り活動への負担が大きいことが課題の一つである。
- そこで、各区それぞれが区内の見守り活動を実施し、区をまたぐ場合には引継ぎを実施することで、活動者の負担軽減だけでなく、登下校の空白地帯の減少につながっている。
- また、各校PTAや交通指導員等が活動を補完し、地域全体での安全な通学路と見守り体制が構築されている。

◎　子供たちの一礼が、横断歩道前で停止する自動車の増加に繋がる

- 町内は交通量が多いうえ、信号機のない横断歩道も多くあるため、一時停止しない自動車も少なくない。
- しかし、横断歩道前で停止した自動車に対して、児童生徒が横断後に一礼することが定着し、横断歩道前で停止する自動車が増加した。

子供たちの笑顔と挨拶が何よりも嬉しい

嵐山町で見守り活動に取り組むみなさん

写真左から：スクールガード・リーダー　花田憲博さん、見守りボランティア「いちえ会」関口和夫さん、権田一郎さん、区長会副会長 茂木伸一さん、区長会会長 権田活一さん、川島3区長 江森不二男さん

嵐山町では、各区がそれぞれに見守り活動を実施しており、どの区も活発に活動しています。なかでも、付き添い登校の引継ぎは、各区が責任を持ち、一生懸命に活動しているからこそ実現できていることだと思います。

一方で、高齢化や定年延長などの影響により、担い手不足や、活動者の固定化など、全国的にみられる課題も表出し始めていますが、町内の子供たちは町内で守る意識のもと、日々安全な通学路の確保に向け取り組んでいます。

活動をしていて、子供たちとコミュニケーションを取り、笑顔挨拶してくれること何よりも嬉しいですね。当初は義務感で活動していた方が、活動を重ね、今では下校時間が来ると自然と体が動いてしまう、なんて人もいるくらいです。

SGL SGの活動	行政との連携	住民同士の連携
見守りノウハウ	活動の活性化	若者の参画

山梨県道志村

「村全体で子供の安全を見守る体制の構築を目指した取組」

行政区分	人口	面積	人口密度	市立小学校数
村	1,633人	4.99㎢	327／㎢	1校

令和３年３月時点

活動の概要

- スクールバスで通学している児童に対して、スクールガード・リーダーが車での見守り活動等を実施。
- ＰＴＡの代表や学校長、駐在所、教育委員、教育委員会事務局を巻き込んだ「道志村児童生徒の登下校時見守り活動隊」を組織して見守り活動を実施。
- さらに、保護者をはじめとして地域全体で見守りを行う体制を構築していくための出発点として、「活動している様子」を見せて行くような周知・PR活動を進め、住民の意識啓発に取り組んでいる。

基本情報

開始の経緯	村内の主要道路の交通量が比較的多く、交通事故が多く発生していることや他県等における子供が狙われた事件等の発生をきっかけとして開始
取組内容	スクールガード・リーダーによる車両追尾による見守り活動、防犯教室の開催 関係組織と連携した「道志村児童生徒の登下校時見守り活動隊」による見守り活動
活動者数と主な経歴	スクールガード・リーダー：１名（教育委員OB）
活動学校	村内の小中学校（小中一体型）
行政からの支援	スクールガード・リーダーに対する帽子、腕章を提供

活動の内容

- 村内の小・中学生はスクールバスで通学していることから、SGLによる見守りは、スクールバスの後ろを自動車で追尾する形で実施している。
- スクールガード・リーダー一人ではできることに限界があることから、地域全体での見守りの機運を高めるため、PTAの代表や学校長、教職員、駐在所、教育委員、教育委員会を巻き込んだ「道志村児童生徒の登下校時見守り活動隊」を組織し、学期に2回、スクールバスの停留所などでの見守り活動を行っている。
- また、同隊の結成にあわせて様々な団体への見守り活動の協力を呼びかけており、建設業協会からはベスト30着の寄贈をうけるとともに、車両に見守り活動中のステッカーを掲示した、ながら見守り活動にも参加いただいている。
- 日常的にPTAから挙げられた危険箇所について教育委員会で取りまとめており、10月に実施している合同安全点検では、スクールガード・リーダーや警察・道路管理者ともに点検を行っている。

活動の工夫

◎　見守り活動を地域に周知して地域の意識向上を図る

- スクールガード・リーダーが保護者や児童・生徒に知られることが重要となるため、始業式や運動会、文化祭などの様々な行事においてスクールガード・リーダーが出席するようにしている。

◎　学校・教育委員会など地域との積極的な連携の場の構築

- スクールガード・リーダーはもともと教育委員であったこともあって教育委員会や学校現場とのネットワークができており、普段から密な連携を行っている。
- 「道志村児童生徒の登下校時見守り活動隊」でも、関係者が集まって相互に意見交換や情報共有を行うなど、地域の関係者と積極的に連携する場を構築し、地域全体で防犯意識を底上げして、地域全体で見守る取組を進めている。

地域全体で見守る意識の情勢に向けて、活動を見せることから始める

道志村スクールガード・リーダー 池谷幸昌さん

一人でできることには限界がありますが、スクールガード・リーダーやスクールガードを増やしても、地域全体をくまなく網羅的に見守ることはやはり難しく、地域全体で協力をしていくことは必要不可欠です。

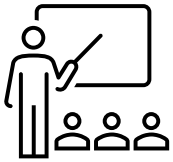
県が実施している研修会などに参加して他のスクールガード・リーダーの方の話を聞く中で、地域全体で見守るような体制を作っていくことが重要だと考え、様々な団体に声をかけて協力を要請し、結果として「道志村児童生徒の登下校時見守り活動隊」などもできました。

「地域全体で協力していく」というゴールに向けて、保護者をはじめとした地域の皆さんの協力を得られるようになるためには、まず、見える形で「活動している様子」を見せて行くことが大事だと考えており、村と協力しながら、周知・PR活動から取り組みを進めています。

学校安全ボランティアを活用した安全点検のイメージ

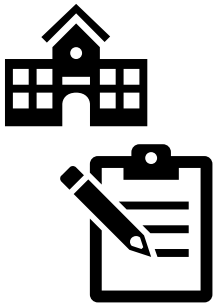
本事業による補助対象
諸謝金、旅費、消耗品費、印刷製本費、通信運搬費、借料及び損料、会議費　等を想定

安全点検方法等に関する講習会



✓ 学校安全ボランティア人材等を対象とした安全点検の手法等に関する講習会の実施を支援

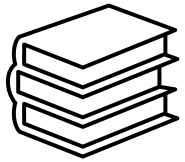
安全点検の実施



✓ 多様な視点による効果的な点検実施

点検結果を生かした危険の除去安全教育

✓ 様々な気づきを安全な学習環境整備に活用



専門家	負担軽減	子供
PTA・地域	PDCA	実効性

村田町立村田第二中学校

PTA等と連携した安全点検の質の向上

所在地　：宮城県村田町
学校種別　：公立中学校
生徒数　：65名
教職員数　：17名

活動の概略

- 2021年より毎年度実施しているPTAの奉仕作業時に、保護者の目線での安全点検に取り組んでいる。
- 安全点検には、生徒も加わり、前年度の点検結果を踏まえ、現状において危険と思われるところがないか確認をしている。
- 教職員が見落としがちな点を指摘いただき、修繕や撤去等を要するものは、教育委員会とも連携し改善や対応につなげている。

教員による安全点検は毎月１回行い、危険箇所については町教委にも迅速に対応してもらっているが、今回、保護者の目線での指摘に新たな気付きをいただき感謝している。これを今後の学校安全に生かしていくことが学校の責務であると感じている。この結果は、職員会議で共有し、再度、教職員の目で確認した上で、町教委とも連携し、子どもたちが安全・安心な学校生活が送れるように、修繕や廃棄すべきものの処理などを適切に行っていきたい。

校長

活動内容

◎PTAと連携した安全点検の取組を通して

- 夏季休業中に実施するPTAの奉仕作業時に、保護者の協力を得て校舎内外の安全点検を実施している。
- 点検には、生徒、教職員も参加し、昨年度の点検結果を踏まえ、危険と思われる箇所（安全面・衛生面）を互いに確認し合いながら実施している。
- 点検後は、参加者全員で点検結果の共有をしている。
- この点検結果を職員会議でも共有し、今回指摘のあった点を再度、教職員により点検を行い、修繕を要するものは、教育委員会と連携して対応している。
- また、今回の点検結果を受け、特に、生徒の活動の様子を踏まえ、多く使用する場所など継続して点検が必要な項目を新たに点検項目に追加をするなどの対応を行っている。

<点検の流れ>

昨年度の点検結果を基に合同で点検

安全面、衛生面の視点でグループに分かれ点検

点検した結果を全体で共有

◎教職員・保護者・生徒の安全意識の高まりにも寄与

- 教職員は、教育活動全般を通じて、生徒の事故を防止するため、安全確認を十分に行った上で授業を行っている。
- 保護者は、この安全点検の取組の意義を理解し、PTAの組織内でも引継ぎを行い、学校とともに子供たちの安全を守っていくための体制を整えている。
- 生徒は、この安全点検をきっかけに、事故防止の呼びかけを行ったり、危険な気付きを共有したりしている。学校における事故発生件数も減少している。

導入・運用時の課題と工夫

- 教職員により、毎月１回の点検を行っているが、校舎の大きさの割に職員数も少なく、安全点検を実施していく上で、どうしても気付かなかったことや、見落としてしまっているものがあるのではないかということから、保護者が奉仕作業で来校する機会に安全点検の協力をいただくこととした。
- 新たな視点で保護者に点検してもらうことや、普段校舎等を使用する生徒の目線からの気付きや指摘は、教職員だけでは気付けなかった生徒の事故を防ぐ視点を把握することにつながり、日常の安全に関する指導にも生かせている。
- 保護者も子供たちの安全の確保の一役を担っていることを感じていただき、年々安全点検への協力者が増えてきている。
- 生徒自身にとっても、この安全点検の取組を通じ、事故の防止を「我が事」として考えるきっかけにもなり、生徒会を中心に安全な行動の注意喚起に努めている。